

【規格名（和名）】

看護実践用語標準マスター

【規格名（英名）】

Standard Terminology for Nursing Observation and Action

【規格の目的、概要】

看護実践用語標準マスターは、看護実践現場で実際に使用されている用語を収集、整理した、看護業務における電子的記録に用いる用語集です。「看護行為編」と「看護観察編」から構成されています。

(1) 看護行為編

看護行為編は看護計画の具体的なケア（看護行為）で、基本的な用語と、助産・母性、在宅領域の用語が収載されています。

第1階層から第4階層までの階層構造になっており、第1階層は包括的分類、第2階層は目的別分類、第3階層は具体的な行為、第4階層は、第3階層の行為を状況、方法に応じて分類したものです。

看護計画、電子経過表などには、基本となる行為である第3階層の用語と、修飾語となる第4階層の用語を用います。第1階層、第2階層、第3階層の用語には定義を併記しています。

(2) 看護観察編

看護観察編は、観察項目とその結果である結果表記で構成されています。観察項目は、大分類（バイタルサイン・基本情報、INTAKE、OUTPUT、自覚症状・訴え、機能、精神・心理・行動、特定対象、観察部位）と、さらに詳細を分けた中分類を設けています。さらに、それぞれの観察項目を、焦点、部位、位相、その他の4つの軸で分類しています（位相とは、部位の右、左などの位置を示します）。結果表記は、表現タイプ（数値型、列挙型、文字型、血圧型、2数値型）を参照することで、入力したい表記方法を選択することができます。

【規格の適用領域】

電子経過表（温度板）、看護指示オーダー、クリニカルパス等のシステムにおいて、看護行為や観察結果を表示、選択入力するような場面で、当該画面を構成する表記内容として利用できます。

本マスターを利用することにより、看護支援システムを新たに導入する際のマスター準備作業の労力を低減できます。また、システムベンダーを交替するような場合にも移行作業がスムーズになります。

【規格の入手方法】

一般財団法人医療情報システム開発センターの看護実践用語標準マスターのホームページからダウンロード入手可能です。

<行為編>

<http://www2.medis.or.jp/master/kango/ko/ui/>

<観察編>

<http://www2.medis.or.jp/master/kango/kansatsu/>

【メンテナンス状況】

看護領域の標準化委員会 看護実践用語標準マスターメンテナンス作業班により検討された内容をもとに、年1回（12月）の定期的なバージョンアップを行っています。

【現在の改版状況】

看護行為編 Ver.3.2（2017年12月リリース）、看護観察編 Ver.3.2（2017年12月リリース）、収載用語数は以下のとおりです。

<看護行為編>

基本看護実践標準用語 2,170件

高度専門看護実践標準用語

一般領域 136件

助産・母性領域 459件

在宅領域 214件

<看護観察編>

5,651件